

第2次産業振興ビジョン 見直し案への推進会議意見の対応状況

No.	委員意見	対応
1	<ul style="list-style-type: none"> 産業まつりの工業部門にもっと人がきてもらえるような、あり方の検討も今後は必要。 	<p>(25頁)取組2 ○1に、低年齢層への体験機会の提供や、高校生・大学生へのPRのあり方など、効果的な開催方法の検討について追記。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 市内企業がアスリートを雇用することで、後輩の雇用やチーム意識の醸成など、企業力を高める契機となり得るので、スポーツと仕事を両立するような取組を提案。 	<p>(26頁)取組3 ○5に、アスリートの雇用や企業経営への活用方法の研究について追記。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> (30頁) 取組10 ○4について、特許取得に留まらず、特許を活かした戦略の立て方が重要。 知的財産を有している企業は収益力が高いという統計があり、事業者数が減少しても収益の確保につながる方策となりうる。 知的財産の支援について、事業者のステップに合わせたフォローアップにINPIT（独立行政法人 工業所有権情報・研修館）を活用するなど誰がやるのが重要。 (38頁) 取組4に、市内農産物のPRの記述があるが、地域ブランド化等、農業に限らず佐倉市の産物の出自がわかるようにできると良い。 	<p>(17頁)推進会議での意見として、事業所数が減少する中でも知的財産保有による収益確保、特許を活かした戦略の立て方が重要との記載を追記。</p> <p>(29頁)取組10 ○4に知的財産に関する外部機関との連携、地域ブランドも含めた市内事業者の競争力強化の視点を追記。</p> <p>地域製品のPR充実については、(30頁)取組12 ○1の「地域ブランドの発信」という表現をしている他、(37頁)取組7に、佐倉独自の認証制度によるブランド化の検討について追記。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> デジタル化のアンケートの設問として、大きなワードで聞いており、個々のイメージが分かれ、対策も異なるのではないか。 	<p>今回のアンケートについては、大きな聞き方をしているため、その結果を記載する。</p> <p>(15頁)推進会議での意見として、実態把握に当たっては、より具体的な内容把握が必要との記載を追記。</p> <p>(29頁)取組10 ○5の実施に当たって、個別具体の課題の把握のうえで適切な取組の実施方法を検討していく。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> AIなどの環境変化に対して、どう使えるようになるか、効率化を図るかが課題。活用により、省力化が期待できる。 	<p>(29頁)取組10 ○5に、AI、DX等の先進的な情報技術を活かした経営力強化につなげる視点を追記。</p>

No.	委員意見	対応
6	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗対策等、新しく事業を始める人に経営を教えることも必要。 ・店舗入れ替えに対する全体的な考え方とフォローアップをしつつ、グループ作りを進めることで、新たなインキュベーターになって発展していくという新しい手法も必要ではないか。 	<p>(32頁)取組17 ○2に、創業者の人脈づくり、事業運営に関する知識・経験の習得について記載済。 商店会をインキュベーターとしていく考え方については、今後の課題として検討していく。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・工業団地のインフラについて、老朽化だけでなく自転車通勤の増加による安全確保の必要性等、様々な環境の変化の影響も大きくなっている。 	<p>(35頁)取組23に、安全確保の視点を追記。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の商店街を立て直すという発想では追い付かない。お店を畳んで次の人に明け渡す方法を模索する必要があるのではないか。 ・駅に近い商業地は居住環境が良く、廃業しても住み続け、壁1枚隔てて店舗を貸すのは難しい。 	<p>(35頁)取組24 ○4に、店舗兼住宅の活用方策の検討を位置づけ。</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化による免許返納者の増加等、交通手段の制約が増えてくる中で、高齢者の休憩施設やベビーカーが押しやすい道など、買い物に来る人の移動手段を考える必要がある。 	<p>(35頁)取組24 ○6に移動困難な方の商店会利用に向けた、公共交通のルート選定時の配慮、商店会の魅力向上の取組を追記。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> ・学生がゼミなどの研究で来た際の話で、小さい頃の記憶等から、若者も対面での買い物に憧れを抱いている感覚が掴めた。先々もっと変化がある中で、商店街の在り方を考えていく必要がある。 	<p>(14頁)推進会議での意見として、パソコンで買い物ができる時代だが、若者も対面での販売に憧れを抱いていることもわかった。先々の変化に際して、商店街の在り方を産官学連携の視点で考えていく必要がある。旨を追記。</p> <p>(35頁)取組24 ○7に若者の意見の取り入れ等、産官学連携の視点からの商店街活性化策の研究の取組を追記。</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> ・農業分野でも担い手の減少が課題。 ・農業の担い手の減少に対しても、農地の集約化を進め、きちんと耕作して保全していけば大丈夫ではないかと思う。 ・新規の稲作への就農はとても難しいので、国・県・市が組織的に支援してあげてほしい。 	<p>(36頁)施策(1)②新規就農支援、(38頁)施策(3)担い手への農地の集約化等の施策の中で対応。</p>
12	<ul style="list-style-type: none"> ・農業法人の育成について、指導者やリーダーの不在が課題である。 	<p>(38頁)取組8の中に、将来の担い手確保、農地利用等の地域課題に係る取組支援を追記</p>